

精神臨床看護学におけるディベートを用いた学習効果の評価

— 学生レポートの分析から —

白石 裕子*, 則包 和也

香川県立医療短期大学看護学科

Evaluation of Educational Effect Using Debate on Psychiatric Nursing Class — Analysis of student's reports —

Yuko Shiraishi, Kazuya Norikane

Department of Nursing, Kagawa prefectural college of Health sciences

Abstract

The purpose of this study is to clarify the effects on learning of the "debate" style used in the psychiatric nursing classes. Reports from students were analyzed from two viewpoints, and the following results were obtained:

1. Benefit of "debate learning" compared to the conventional "group learning" :

Prior to the discussion section, the students gleaned diverse information from multidirectional viewpoints, selected the information that supported the viewpoint held by their group, and analyzed the information. In the learning process, the students of each group strengthened their unity to win the debate.

2. Students' self-evaluation of their own presentations at the debate :

Some students pointed out that presenting concrete numerical data had been advantageous to their group. Some students pointed out that having clearly defined and distinct roles for each member of the group had been advantageous in making an argument.

Many students pointed out that the concrete numerical data should have been more effectively used in the presentation, and also pointed out that they should have used their allotted presentation time more effectively.

These results suggest that "debate learning" is the better learning style for establishing the students' identity and for increasing their active learning.

Key words : ディベート (Debate),
プレゼンテーション (Presentation),
学習効果 (Educational Effect)

* 連絡先 : 〒 761-0123 香川県木田郡牟礼町大字原 281-1 香川県立医療短期大学看護学科

* Correspondence to: Department of Nursing, Kagawa prefectural College of Health Sciences,
281-1 Hara, Mure-cho, Kita-gun, Kagawa, 761-0123,

はじめに

本学の精神臨床看護論では、「精神看護学概論及び精神保健論等の知識を統合して、精神活動に障害のある人およびその家族に対する具体的援助方法を理解するとともに、カウンセリング・心理検査・集団療法等の演習を通してさまざまな精神療法の実際を学ぶ」という目標を掲げて学習を行なっている。今回、学生が経験的に学びを深める学習目的をさらに深めるため、学生が主体となって学習を深めていく教育方法であるディベートを用いた演習を行なった。

ディベートを用いた教育は、欧米では古くから行なわれており、イギリスにおいては、オックスフォード大学とケンブリッジ大学の間で1400年代初期に始められ、アメリカでは、1800年代後半に始まったとされる。日本における教育ディベートは、自由民権運動により明治・大正期に広がったものの、その後弾圧により下火になり、第二次世界大戦以後復活し、1946年朝日新聞社による「朝日式討論会」という競技ディベートが行なわれた。しかし、1950年に突然中止となり、その後日本語による教育ディベートはほとんど消滅したとされる。それに代わって1950年から大学のESS (English Speaking Society) で英語教育方法の1つとして英語によるディベートは行なわれるようになっていた。1990年、日本の大学教育の教育カリキュラム改訂が実施され、教育学部の改組、廃止がなされ、日本語による教育ディベートが再び注目されるようになった。

看護教育においてディベートが紹介されたのは1991年になってからである。しかし、看護教育においてのディベート実施は進んでおらず、ディベート教育の実践・評価を研究したものも少ない¹⁻³⁾。

ディベート教育の持つメリットとして、村本⁴⁾は、①客観的分析力、②論理的思考力、③発表能力、④よりよい聞き手となる、⑤情報収集能力、⑥主体的学習態度、⑦知識の統合、⑧共感的態度を育成する、といった事柄を挙げている。今回、われわれは精神臨床看護論演習において、そのメリットを活用し、精神看護学の学びを深めたいと考えた。そして、学生の講義後のレポートから、学習効果の評価を行ない、精神看護の学習を行なう上で、ディベート教育はどのような効果があるかについての検討を行なった。

研究方法

1. 対象

精神臨床看護学のディベートの講義と演習を受講した本学2年次の学生48名のレポート

2. 研究期間

平成14年10月～平成15年10月

3. データ収集方法と倫理的配慮

演習後、1週間以内にレポートを提出するように指示した。レポートは、成績評価の対象としたが、レポート内容を分析し研究に用いる事については、記述内容から学生個人が特定できないように配慮し、研究以外には用いない旨を学生に口頭で説明し、許可を得た。

4. ディベート学習の実際

1) 時間配分

講義には、1時限90分、ディベート演習の事前学習の為のグループ学習には、1時限90分を用いた。実際のディベート演習には、講義及びグループ学習の1週間後の2時限180分を用いた。

2) 目的

ディベートを用いた学習を行なう事で、テーマに関しての客観的分析力、情報収集力、プレゼンテーション能力を高め、主体的学習態度を身につける。

3) 講義

“ディベートとは” “ディベートの種類” “ディベートのメリット” “ディベートのデメリット” “ディベートの方法” についてレジュメを用いて説明した。

4) ディベートのテーマ

ディベートのテーマを①事実論題、②価値論題、③政策論題、というテーマ設定の基準⁴⁾から、教員2名で精神看護学にふさわしいと考え作成した次の4題のテーマを提示した。

- A. 犯罪者が精神障害者で、犯行当時に心身喪失状態であったなら、無罪である。
- B. 自分の家の2軒隣に精神障害者のグループホームが建設される予定となった。
- C. 精神科の看護師は他科の看護師よりも仕事が楽である。
- D. 統合失調症は遺伝性の疾患である。

立論	
①肯定	5分
②否定	5分
(作戦タイム 2分)	
反対尋問	
①肯定側	5分
②否定側	5分
合計 22分	

図1. 簡略型ディベートの形式

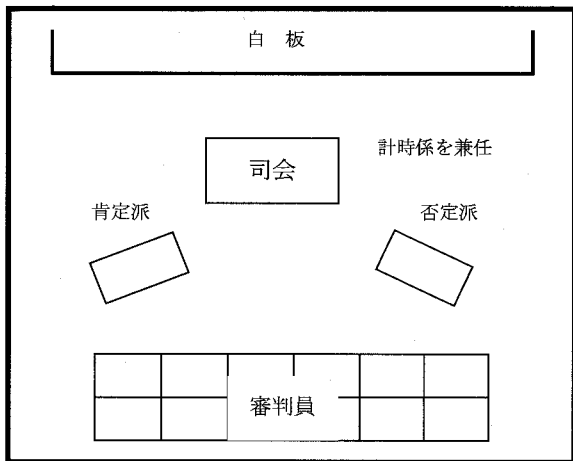


図2. ディベート演習(時)の学習環境設定

5) グループ編成

それぞれのテーマについて肯定側, 否定側に分け, 計8グループに編成した.

5. ディベート演習の実際

ディベートの形式は簡略型ディベート⁴⁾に従った(図1). 学習環境設定は図2のように行なった. ディベートの判定は, 図3のような評価用紙を用いて, その時ディベートを行なっていない2グループが審判を行なった. 司会とタイムキーパーは教員2名で行なった.

6. ディベート学習に関するレポート

- ①これまでのグループ学習^{*)}と今回のディベート学習^{**)}において資料を収集する際の相違点
- ②グループ内で事前学習を行なう際に工夫(配慮)した事
- ③自分や自分のグループの発表について評価できる点と反省点
- ④相手側の立論(発表)を聴いている際に留意した事
- ⑤審判を行なった際に留意した事
- ⑥自分のグループ内での役割
- ⑦ディベートの感想, 学習した事, 反省点などの自由記述についての記述を求めるレポートを課題とした.

第____試合																																																														
テーマ: _____																																																														
肯定側_____チーム	否定側_____チーム																																																													
判定基準: (5:とても優秀, 4:優秀, 3:普通, 2:努力を要する, 1:かなりの努力を要する)																																																														
1 2 3 4 5	1 2 3 4 5																																																													
<table border="1"><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																															問題分析 論拠・証拠資料 スピーチの構成 質疑応答 反論・反駁 話方・語句解釈	<table border="1"><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																														
_____/30	合計	_____/30																																																												
判定: (肯定/否定)側チームを勝ちとする。(一方を○)																																																														

図3. ディベート判定時に用いたチェック表

*) ディベートを用いないグループ学習
**) ディベートを用いたグループ学習

表1. グループ学習とディベート学習の相違点

学習過程	比較項目	グループ学習	ディベート学習
情報収集	テーマについての明確化・焦点化	明確化・焦点化無し	テーマを明確化・焦点化した情報収集
	情報源	本からの情報が主	本、インターネット、インタビュー、アンケート等多様
	勝敗の意識	無し	勝敗を意識した情報収集
	情報収集の分野	テーマの分野のみ	幅広い分野からの情報収集
	2つの立場からの情報収集	無し	2つの立場(肯定・否定)からの情報収集
	情報の正確性・客観性	ある程度有り	情報の正確性・客観性の重視
	情報の分析・解釈	無し	情報の分析や解釈の必要性
	事例の収集	無し	具体的に身近な事例収集
グループダイナミクス	意見の予測・想定	無し	相手側の意見の予測・想定
	意見交換の活発化	少ない	多面的な視点からの意見交換の活発化
	グループ内の団結	無し	勝敗を意識した団結
	グループの立場の優先	無し	グループの立場を重視
	グループの作戦の秘密保持	無し	有り
	メンバーとしての役割の明確化	ある程度有り	役割分担を重視

表2. ディベート学習におけるプレゼンテーションの評価点と反省点

カテゴリー	評価点	データ数	反省点	データ数
1 プレゼンテーションの工夫	発言態度や言葉遣いへの留意・工夫	7	発言態度や言葉遣いへの留意・工夫の欠如	6
	視覚的効果を意図した資料の提示	6		
2 プレゼンテーションにおけるグループダイナミクス	グループ間の結束・共通認識の向上	5	グループ間の結束・共通認識の欠如	1
	効果的なグループ内の役割分担	12	効果的なグループ内の役割分担の失敗	7
3 ディベートの勝敗を意識したプレゼンテーション	相手側の尋問の予測	2	相手側の尋問の予測不十分	3
	審判員へのアピール	2		
	自分たちに有利な情報の選択	2		
4 ディベートの形式の遵守	立場を明確にした主張	13	立場を明確にした反論不足	3
	相手側の意見への注意・集中	2	相手側の意見への注意不足	1
	時間配分への配慮	1	時間配分の配慮不足	19
5 プレゼンテーションに対する周知な準備	根拠に基づいた整合性・論理性のある主張	7	情報の正確さの判断不足	2
	実例や数字、最新の情報等を用いた具体的なデータの使用	9	実例や数字、最新の情報等を用いた具体的なデータの使用不足	10
			多面的な視点からの分析不足	6

7. レポート記述内容の分析

研究者2名で、レポートの各項目毎に記述内容を検討し、特にグループ学習とディベート学習との相違点とプレゼンテーション時の評価点と反省点の2点に焦点をあて、内容分析の手法に従ってカテゴリー化を行ない、学習効果を分析、検討した。

結果

1. グループ学習とディベート学習との相違点

記述内容を整理した結果、学習過程として【情報収集】と【グループダイナミクス】の2つに分類され、グループ学習とディベート学習の学習形態の相違点を比較するものとして、それぞれ9項目と5項目が抽出された(表1)。

1) 情報収集についての相違点ディベート学習では「テーマについての明確化・焦点化」が行なわれていた。情報源については、グループ学習では本からの情報が主であったが、ディベート学習では本、インターネット、インタビュー、アンケート等多様な情報源を用いて、情報収集を行っていた。特にテーマCでは、学生は看護師として臨床経験のある教員

7, 8名に自発的にインタビューやアンケートを行っていた。また、ディベート学習ではグループ学習に比べ、「情報の正確性・客観性」を重視した情報収集が行なわれており、グループ学習ではみられなかった「情報の分析・解釈」「事例の収集」「意見の予測・想定」も行っていた。

2) グループダイナミクスについての相違点

ディベート学習ではグループ学習で少なかった「多面的な視点からの意見交換の活発化」がみられた。またグループ学習ではみられなかった「グループ内の団結」「グループの立場の優先」「グループの作戦の秘密保持」「メンバーとしての役割の明確化」等がみられた。

2. ディベート学習におけるプレゼンテーションの評価点と反省点

“自分や自分のグループの発表について評価できる点と反省点を記述してください”という質問への回答について評価点と反省点のそれぞれをカテゴリー化した(表2)。上位カテゴリーとしては、カテゴリー1【プレゼンテーションの工夫】カテゴリー2【プレゼンテーションにおけるグループダイナミクス】

カテゴリ3【ディベートの勝敗を意識したプレゼンテーション】カテゴリ4【ディベートの形式の遵守】カテゴリ5【プレゼンテーションに対する周知な準備】の5つが抽出された。カテゴリ1では、「発言態度や言葉遣いの留意・工夫」が7件あり、反省点では、「発言態度や言葉遣いの留意・工夫の欠如」として6件あった。カテゴリ2では、「グループ間の結束・共通認識の向上」や「効果的な役割分担」ができていたと評価する内容が多かった。カテゴリ3では、「相手側の尋問の予測」「審判員へのアピール」「自分たちに有利な情報の選択」等の評価点があがった。カテゴリ4では、「立場を明確にした主張」が評価として最も多かったが、逆に反省点として、「時間配分の配慮不足」が多かった。カテゴリ5では、「実例や数字、最新の情報等を用いた具体的なデータの使用」が評価点、反省点に共通して記述が多かった。

考 察

1. グループ学習とディベート学習の相違点について

グループ学習に比べディベート学習では、「勝敗を意識」したり、「2つの立場（肯定・否定）」からの情報収集の必要性を感じた結果として、多角的な情報収集や、グループ学習ではまったくみられなかった「情報の分析・解釈」「事例の収集」「意見の予測・想定」も行なっていた。こうした結果から、ディベート学習では、得られた情報をそのまま提示するのではなく、自分たちの立場に適した情報の選択や整合性を検討するという、より高いレベルの学習を行なっていたのではないかと推測される。また、ディベート学習ではグループ学習よりも、グループ内での秘密保持や役割分担などを考える事で、意見交換の活性化等グループ内の団結が高まる【グループダイナミクス】が生じている事がわかった。これも、勝敗を決めるといふディベート学習のゲーム性に学生が反応した結果であると考えられ、教育においてゲーム性を取り入れる事の有効性が示唆されたといえよう。

2. ディベート学習におけるプレゼンテーションの評価点と反省点

プレゼンテーションで学生が評価した点として、自己の立場を明確にした主張が行なえたというものが一番多く、次にグループ内での役割分担ができていたという意見が多かった。この背景には、事前学習で十分に実例や数字によるデータ収集ができてお

り、それに裏付けられた主張が行なえていたという事が考えられる。さらに、プレゼンテーションの工夫として、わかりやすい言葉遣いを意識しており、発言の際の態度にまで配慮が行なわれていた。審判へのアピールなどにも配慮しており、教師側では特に指示していなかったフリップなどを用いた視覚的效果を意図したプレゼンテーションも行なっていた。こうした発表形式は、テレビ等の影響も考えられるが、自分たちの収集した資料を多角的に提示し、効果的に相手側や審判に伝える自発的で積極的なプレゼンテーション能力を高める学びが行なえていたと考えられる。

一方、反省点として一番多く挙げられていたのは、時間配分の配慮不足であった。これは、180分の講義時間の中で、4つのディベートを行なうという時間的制限があり、十分な立論や反対尋問の時間を設定する事ができなかったということが主要な原因であると考えられる。また、評価点で高かったものとして、実例や数字、最新の情報等を用いたというものも多かった。これは、相手側に自分達の立場を主張する際に、具体的なデータがいかに重要であるかに学生が気付いた結果とも考えられる。

3. 精神看護学を学習するにあたってのディベートの学習効果

学生のレポートでは記述をもとめていないが、精神看護学を学ぶにあたってのディベートの学習効果を考察した。まず、精神看護を含む精神医療の問題は、精神疾患の原因が未だに明確にされていないことが象徴するように、因果関係がはっきりとされていないものが多い。それゆえ、善悪、正邪よっての判断よりも、より多角的かつ多面的な視点がもとめられる領域であるといえる。また学生は、精神障害者に接することが少なく、主にマスメディア等からの一方的な情報から、偏った精神障害者のイメージを形成していることが多い。しかし、今回のディベート学習から学生は様々な視点から一つの現象をとらえる能力の必要性を感じたことが示唆された。

このような視点を育成することが精神看護学の学びの中で重要な点であり、ディベート学習はまさにその点において有効であるといえよう。

まとめと今後の課題

今回、ディベート学習を精神臨床看護論に取り入れ、その学習効果を検討した。はじめての取り組み

であったが、教師側が意図した学習効果以上のものが学生に見られたという感想をもった。ディベート学習は看護教育の中ではあまり行なわれておらず、その評価もまだ明確ではないが、今後この学習形態を用いる事で、学生の自ら学習に取り組む能力を伸ばし、諸外国に比べ日本人に不足していると言われている⁵⁾プレゼンテーション能力の育成にもつながるのではないかという示唆を得た。一方、教師側が配慮すべき課題として、学生から、テーマC（精神科の看護師は他科の看護師よりも仕事が楽である）に関して、否定側が最初から不利であったという意見があり、適切なテーマではないのではないかという指摘を受けた。ディベート学習におけるテーマ設定は、議論の公平性を保つためには重要な問題であり、十分に配慮していく必要があることを肝に銘じ、今後の課題としていく所存である。

文 献

- 1) 近藤裕子, 近藤美月, 岩本真紀, 立石有紀, 南妙子 (2002) ディベート授業における学生の学び討論者・判定者・傍聴者の立場から. 香川医科大学看護学雑誌 6 (1): 7-11.
- 2) 近藤裕子, 岩本真紀, 立石有紀, 近藤美月, 南妙子 (2002) ディベートにむけたグループ学習で学生が抱いた困難なこと. 香川医科大学看護学雑誌 6 (1): 13-17.
- 3) 近藤裕子, 近藤美月, 岩本真紀, 南妙子, 立石有紀 (2002) 看護学生の自己評価から考察するディベート授業. 香川医科大学看護学雑誌 6 (1): 19-25.
- 4) 村本淳子 (2001) “討議を取り入れた学習法”, 医学書院, 東京, p25-32.
- 5) 茂木秀昭 (2001) ディベートを導入した医学英語教育 (1) -なぜディベートなのか? - 医学教育 32 (3): 170-171.

受付日 2003年11月4日